

令和5年度 自己評価・学校関係者評価書

令和6年 3月18日

静岡聖光幼稚園

1 幼稚園の教育目標

- 自然を素直に受け止め、自然と向き合う感性や意欲を育てよう
- 人と共に生きることの喜びを味わうことのできる社会性を育てよう
- 社会の中で自尊心を持って、自分で生活を営む生きる力を育もう

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- 1 子どもの主体性について、活動に限らず園生活全体で見直そう。
- 2 地域との関わりや異年齢交流について、検討しよう。
- 3 主体的な遊びにおいて、園や地域の自然を有効的に取り入れよう。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由	関係者評価
①保育の計画性	A	教師間で何度も話し合いを重ね、今の子どもの実態に合わせた行事の見直しが出来た。	○
②保育のあり方 幼児への対応	A	学年、クラス関係なく、子どもの姿を教師間で共有し、丁寧な対応を心掛けた。教師間の話し合いの場を多く設けた。	○
③教師として資質 能力、適正等	B	経験年数の違いが顕著な点があり、各教師によってそれぞれ課題が違う面が見られた。	△
④保護者への対応	A	子ども自身の事よりも、時に保護者対応に時間が取られることも多かったが、それぞれの立場なりに丁寧に対応できていた。	○
⑤地域の自然や地 域との関わり	B	出来る範囲で考慮はしてきたが、カリキュラム的に単発で終わってしまっていた。	△
⑥研修と研究	A	園内研修が充実してきており、研修への取り組みはどの教師も意欲的に行えて、保育の実際の見直しもできた。	○
⑦環境整備、 安全点検	A	点検は定期的に怠らず行っており、共有もできている。環境において一人一人が意識的に目を向ける事ができてきている。	○

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

子どもたちがより主体的に遊びや活動に取り組めるように、行事や諸活動を見直す事が全般的にはできた。地域や自然との関わりについては、引き続き、計画に入れ込み、検討の余地がある。また、一人一人が環境などに意識を向ける良い面が見られた反面、資質・能力の面では、人によっては課題にまだまだの面も見られた。今後、自ら問題意識を持ち、それぞれの課題に積極的に進んで取り組むよう、子どもたちのために努力していきたい。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
地域との関わりを考えよう。	<ul style="list-style-type: none">・ 園近くの公園等を探索し、マップを作成し、実際に出掛け、子どもたちの体力向上を兼ねたり、季節の自然に触れたりができるよう、単発的でなくカリキュラムに取り入れる工夫を行う。・ 地域との関わり方をそれぞれで考えていく。
異年齢のかかわりの充実を図るために工夫をしよう。	<ul style="list-style-type: none">・ 異年齢のペア活動を活発に行うよう考慮する。例えば定期的にお弁当を食べたり、遊んだりを一緒に行う事を月1回、触れ合いの機会として設けるなど、具体的に考え、実践していく。

6 学校関係者評価委員会からのコメント

来年度に向けて、東海北陸幼児教育大会に話題提供園の静岡代表として推挙され、研修に園全体で前向きに取り組もうという姿勢は、評価すべき点である。それに即して、園内研修を活発に行うなどの姿勢を今後もぜひ続けていってほしい。それぞれの課題を教師一人一人が自分なりに考え、皆で話し合いを持続して、子どもたちのためにさらに教師としての資質を高めていってほしい。地域に目を向ける事も大切であり、現代においては異年齢の関わりを深めることも幼稚園として大事な点である。今後の実践における成果を期待したい。

上記、学校評価の報告を受けた事を証明します。

学校法人 大石学園
静岡聖光幼稚園
理事長 大石和正